

横浜国立大学 副専攻プログラム  
Yokohama National University Undergraduate sub-major program

# 地域交流科目 履修案内 2023

"Local-exchange Subjects" 2023 Syllabus



## オリエンテーション

4月11日(火), 12日(水) 18時から YouTubeライブ

\* ライブの内容は、後日にもオンデマンドで観れます。

\*Youtube のアドレスや地域課題実習の詳細情報については、  
下記の HP サイトからご確認ください。



HP サイト

<https://chiki-ct.info/kouryu>

グローバルな視野をもって地域課題を解決する  
先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラム

This program trains students to solve local challenges  
with a global perspective and acquire advanced, integral, practical skills.

# 『地域交流科目』の概要

Outline "Local-exchange Subjects"

グローバル化が進むなかで、実際の経済活動の場である都市・地域の活力を維持し、そこに生活する市民の生活の質をいかに高めていくかが、21世紀初頭の課題になってきています。

このような現代的課題とニーズに対応するため、本学では、「教育学」「経済学」「経営学」「理工学」「都市科学」が連携して、各学部領域を横断して学べる副専攻プログラム「地域交流科目」を設置し、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラムを設けています。

## \*副専攻プログラムとは

副専攻とは、自分自身が所属する主専攻（学部）以外の分野を系統的に学習するプログラムです。

副専攻プログラムである「地域交流科目」は、「地域」に関わる知識を学部横断型で学び、地域への「交流」を踏まえながら、実践能力を身につける副専攻プログラムとなっています。

## \*副専攻プログラムの修了認定

- ・修了認定の要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。
- ・修了が認定されると、成績証明書の特記事項欄に「副専攻プログラム（地域実践）修了」と記載されます。
- ・これまでの実践的な取り組みを就職や進学の際に端的にアピールするものとして効果が期待できます。

## \* About the Undergraduate sub-major program "Local-exchange Subjects"

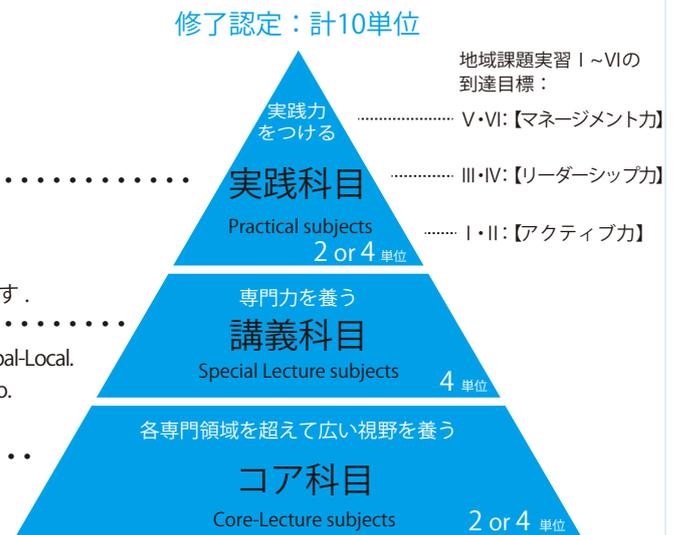
Local-exchange Subjects connects independent subjects from all departments to train students as young talent who can solve local challenges with a global perspective. This program consists of ①Core-Lecture subjects, ②Special Lecture subjects, ③Practical subjects. On completion of these ten credits through attendance and participation, the student will be awarded a completion certificate for the accredited sub-major program.

## \*地域交流科目のプログラム体系

- ・実践科目は各地域の課題を解決するために実践的活動です。
- ・地域課題実習やその他の実践的な授業から、学生は選択できます。
- ・多くの学生が複数年にわたり履修・参加しています。
- ・The Practical subjects are active to solve the problem in local.
- ・Student can select a project from the Local Challenges Trainings.
- ・Many students are studying it over the years.

- ・講義科目は各学部から提供されている地域に関する専門的講義です。
- ・自分自身が所属する学部以外の講義の受講が可能です。
- ・Special Lecture subjects are picked up by each department about the Global-Local.
- ・It is possible to take the lectures outside of the department you belong to.

- ・コア科目では地域に関する基礎的な知識を学べます。
- ・地域で活躍する教員・実務者・行政によるオムニバス講義です。
- ・Learn about the basics of local areas.
- ・Omnibus lecture by the professor, businessman, government.



単位の修得例：  
コア科目 4 単位 + 講義科目 4 単位 + 実践科目 2 単位 = 計 10 単位  
コア科目 2 単位 + 講義科目 4 単位 + 実践科目 4 単位 = 計 10 単位

※地域課題実習は 2022 年度から地域課題実習Ⅴ、Ⅵが加わります。各段階の到達目標は下記のとおりです。

- ・**地域課題実習Ⅰ・Ⅱ：【アクティブ力】** 対象とする地域の特徴や課題、およびプロジェクト活動の内容を把握する。プロジェクト活動を通じてコミュニケーション力をつけ、能動적およびアクティブに活動を実践できる力をつける。
- ・**地域課題実習Ⅲ・Ⅳ：【リーダーシップ力】** プロジェクト内のグループの班長、さらにはプロジェクトのリーダーとして、活動を推進する力をつける。また、地域関係者との連絡・調整を行うことができるコミュニケーション力を身につける。
- ・**地域課題実習Ⅴ・Ⅵ：【マネジメント力】** プロジェクトのリーダーとしてプロジェクトをマネジメントする力を身につける。また、地域課題実習全体に目を向けて横断的な連携や、国内外における様々な取組みに目を向けた情報発信など、プロジェクト活動の更なる発展や展開方法などを図る力をつける。

## 履修・申請の流れ

Step for the take the subjects and applications



### 「オリエンテーション」

4月11日(火),12日(水) 18時～

オンライン開催

\*詳しくは下記のINFOサイトでご確認下さい。

<https://www.chiki-ct.info/kouryu>



地域交流科目の説明や、  
地域課題実習の各プロジェクト等の紹介があります。  
教員や昨年から履修・参画している学生達からの  
楽しく充実したプレゼンテーションが盛り沢山。  
気になる方はCheck out !



### 「履修登録」

副専攻として履修する単位が、各学部における卒業取得要件と重なる場合は、  
どちらの単位としても認められます。

most important!

実践科目：「地域課題実習」を履修・参画する全員の方へ：

地域課題実習のⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ,Ⅵのいずれかを履修登録した上で、  
「所属したいプロジェクト (p.5,6掲載)」を、下記サイト・QRコード先の  
「地域課題実習 参画プロジェクト申請フォーム」から  
登録申請をしてください。

<https://forms.office.com/r/X11e0d7UCy>

\* 地域実践センターのHP サイトにも、  
上記 form アドレスは掲載されています。

(登録申請をしないと成績が付きません！)

■ 申請×切は4月20日 (木) 23:59まで



地域課題実習は1年間を通じて  
同じプロジェクトを  
履修・参画してください。

要既読

地域課題実習を  
「単位履修なしで参画したい人」も  
所属したいプロジェクトの  
登録申請をして下さい。

要既読

秋学期に  
「地域課題実習Ⅱ orⅣ orⅥ」を  
履修登録し忘れないように！  
忘れる人が多いです。>\_<;

要既読



### 「地域交流科目」 計 10 単位

「地域交流科目」は、4年間をかけて、  
どの科目・授業から履修しても良いです。

修了認定  
申請書

### 「修了認定」の申請

\*修了認定は自己申請によって認定されます。

修了認定の要件：

- ①：コア科目 2単位以上 取得
  - ②：講義科目
  - ③：実践科目 2単位以上 取得
  - ④：上記①と③の合計6単位以上
  - ⑤：講義科目と合わせて上記①～③の合計が10単位以上
- \*2022年度の申請分から「GPA 3.0以上であること」の要件が  
外されました。

\*申請方法が、2022年度より変更されます。

修了申請する人は、下記の申請フォームを通じて申請してください。

\*下記フォームにおいて「貴方の地域交流科目の単位取得状況・結果を、事務局を通じて確認すること。」を承認することで、  
成績証明書の提出は不要になります。

■ 修了申請フォーム：<https://forms.office.com/r/0Y4g6Z0umd>

\* 地域実践センターのHP サイトにも、上記 form アドレスは掲載されています。



申請×切：4/20, 11/17, 2/16\*

修了認定は自己申請によって認定されます。  
修了申請を出すタイミングは、  
単位取得直後でも、就活・進学前の時期でも  
OKです。

要既読

- ・申請の×切後：1ヶ月後ぐらいに認定がされます。
- ・提出は随時受け付けています。

# 「地域交流科目」一覧

The List of the "Local-exchange Subjects"

●各授業の内容は、全学教育科目および各専門科目のシラバスをご確認ください。

地域交流科目 でのカテゴリ	開講学部	科目名	担当	対象学年	開講機	単位	備考欄
コア科目	全学教育科目/ 教養教育科目	地域連携と都市再生A (ヨコハマ地域学)	志村・内海・秋元	1~4年	春	2	※都市科学部生は学部共通科目として履修
		地域連携と都市再生B (かながわ地域学)	志村・池島・伊集	1~4年	秋	2	※都市科学部生は学部共通科目として履修
		神奈川のみらい	為近・望月	1~4年	春	2	H31よりコア科目にカテゴリ変更
		横浜学-地域の再発見-	安野	1~4年	春	2	H31よりコア科目にカテゴリ変更
講義科目	全学教育科目/ 教養教育科目	建築の環境と防災	河端 他	1~4年	秋	2	※一部学科・EP(建築系)履修不可
		ベンチャーから学ぶマネジメント	井上 他	1~4年	秋	2	
		現代の物流経営	倉田	1~4年	秋	2	
		環境をめぐる諸問題Ⅰ	酒井 他	1~4年	第4ターム	1	
		環境をめぐる諸問題Ⅱ	松田 他	1~4年	第5ターム	1	
		グローバル化と日本人	市村	1~4年	秋	2	
		色彩論	渡辺	1~4年	春	2	
		安全・環境と社会	澁谷 他	1~4年	春	2	
		エネルギーと環境	辻	1~4年	春	2	
		海事技術史	南	1~4年	春	2	
		海洋工学と社会	海洋EP各教員	1~4年	秋	2	
		物質工学と社会	相原	1~4年	春	2	H31より新規科目
		システム・エンジニアリング	藤井・田村	1~4年	春	2	H31より新規科目
		アート・マネジメント	永澤	1~4年	秋	2	R5より新規追加
	教育学部	日本史概論Ⅰ	多和田	2~4年	秋	2	隔年開講のため2022年度なし
	経済学部	地方財政	伊集	2~4年	春	2	H29以降入学生
		中級地方財政	伊集	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級地方財政	伊集	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		地域経済政策	居城	2~4年	春	2	H29以降入学生
		中級地域経済政策	居城	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
中級地域経済政策		居城	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ	
国際環境経済論		氏川	2~4年	春	2	H29以降入学生	
中級国際環境経済		氏川	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)	
中級国際環境経済		氏川	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ	
現代社会福祉		余(乾)	2~4年	第4ターム	2	H29以降入学生	
中級現代社会福祉		余(乾)	3~4年	第5ターム	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)	
中級現代社会福祉		余(乾)	2~4年	第5ターム	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ	
比較農業政策		倪	2~4年	第1ターム	2	H29以降入学生	
中級比較農業政策		倪	3~4年	第2ターム	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)	
中級比較農業政策		倪	2~4年	第2ターム	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ	
理工学部		環境管理学	中井	3~4年	秋	2	
	データサイエンス	森,長尾,富井	3~4年	春	2		
	課題プロジェクト演習 地域経済	—	2~3年	休講	2	経済学部生のみ受講可	
	途上国経済	藤森	2~4年	春	2	H29以降入学生	
	中級途上国経済	藤森	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)	
	中級途上国経済	藤森	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ	
	地域イノベーション政策	遠藤	2~4年	秋	2		
	家族と法	常岡	3~4年	春	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)	
	家族と法	常岡	2~4年	春	2	経済学部DSEP生のみ	
	民法(親族・相続)	常岡	2~4年	春	2	経済学部LBEEP生のみ	
経営学部	産業分析	貴志	3~4年	春	2		
	Production and Operations Management	鈴木(定)	3~4年	秋	2	科目名変更(旧:Operations Managements)	
理工学部	生態会計論	曹	2~4年	秋	2	旧:生態会計論Ⅰ	
	環境工学	中井	3~4年	秋	2		
都市科学部	コミュニティデザイン講義	佐藤(峰)	1~4年	秋	2	2020年度以前入学の学生は「国際開発学講義」で履修。	
	都市生態学	佐々木	1~4年	第4ターム	1		
	保全生態学	佐々木	2~4年	第5ターム	1		
	生態リスク学入門	松田 他	1~4年	第1ターム	1	2024年度以降の開講は未定	
	里地と山地の生態学Ⅰ	小池(文)他	2~4年	第4ターム	1		
	里地と山地の生態学Ⅱ	酒井 他	2~4年	第5ターム	1		
	都市基盤計画論	松行	1~4年	第5ターム	1		
	地域・都市計画	松行	2~4年	第4ターム	1	2020年度以前入学の学生は「都市計画と交通」で履修。	
	都市基盤解析論	安部 遼祐	2~4年	秋	2		
	居住空間の計画Ⅰ	藤岡	2~4年	第1ターム	1		
	居住空間の計画Ⅱ	藤岡	2~4年	第2ターム	1		
	建築環境計画Ⅰ	田中(稲)	2~4年	第1ターム	1		
	建築環境計画Ⅱ	田中(稲)	2~4年	第2ターム	1		
	都市と都市計画Ⅰ	高見沢	2~4年	第4ターム	1		
	都市と都市計画Ⅱ	高見沢	2~4年	第5ターム	1		
	都市環境リスク共生論A	佐土原	2~4年	第4ターム	1		
	都市環境リスク共生論B	佐土原	2~4年	第5ターム	1		
	コミュニティデザイン演習Ⅰ	佐藤(峰)	2~4年	第1ターム	1	2020年度以前入学の学生は「コミュニティ開発演習Ⅰ」を履修。	
	コミュニティデザイン演習Ⅱ	佐藤(峰)	2~4年	第2ターム	1	2020年度以前入学の学生は「コミュニティ開発演習Ⅱ」を履修。	
	高齢社会とリスクA	安藤	2~4年	第4ターム	1		
	高齢社会とリスクB	安藤	2~4年	第5ターム	1		
	環境・エネルギーシステム論Ⅰ	鳴海	2~4年	第4ターム	1	2024年度以降の開講は未定	
	環境・エネルギーシステム論Ⅱ	鳴海	2~4年	第5ターム	1	2024年度以降の開講は未定	
	都市・地域経済学Ⅰ	遠藤	2~4年	第1ターム	1		
都市・地域経済学Ⅱ	遠藤	2~4年	第2ターム	1			
国際社会学演習Ⅰ	長谷川	2~4年	第1ターム	1	R5より新規追加		
国際社会学演習Ⅱ	長谷川	2~4年	第2ターム	1	R5より新規追加		
国際社会学講義	長谷川	2~4年	秋学期	2	R5より新規追加		

実践科目	地域課題実習Ⅰ	志村 他	1~4年	春	1	R4より新規科目 R4より新規科目
	地域課題実習Ⅱ	志村 他	1~4年	秋	1	
	地域課題実習Ⅲ	志村 他	2~4年	春	1	
	地域課題実習Ⅳ	志村 他	2~4年	秋	1	
	地域課題実習Ⅴ	志村 他	3~4年	春	1	
	地域課題実習Ⅵ	志村 他	3~4年	秋	1	
教育学部	学外活動・学外学習Ⅰ	担当者未定	1~4年	春・秋	2	H31より実践科目にカテゴリ変更

●昨年度まで地域交流科目の選択必修科目（講義科目）に登録されていた講義で、

今年度から開講になっている講義も、修了認定をするための科目として位置づけられます。

閉講科目等ははこちら

講義科目	全学教育科目 /教養教育科目	健康スポーツ演習B	R2年度まで開講	-	-	2	ウォーキング (R2時間割コード: 9109148)
		健康スポーツ演習B	R元年度まで開講	-	-	2	臨海実習 (9109148)、スキー (9109152)
		グローバルビジネス・コミュニケーション	H29年度~科目名変更	-	-	2	H29「グローバル化と日本人」科目名変更
		海と地域のつながりと活性化	水井、船場	1~4年	秋	2	R2より新規科目
	教育学部/教育 人間科学部	自然地理学	R2年度まで開講	-	-	2	
		共生社会論ID (社会生活論)	R元年度まで開講	-	-	2	
		共生社会論II B (国際社会学)	R元年度まで開講	-	-	2	
		グローバルイノベーションと地域社会II	R元年度まで開講	-	-	2	
		生物学特講I	R3年度まで開講	-	-	2	
	理工学部	地域・都市計画	R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない 旧カリ
		都市計画と交通	R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない
		都市基盤計画	R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない
		交通計画	R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない
		居住空間の計画	R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない
		屋外気候と建築環境	R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない
都市と都市計画		R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない	
建築・地域環境計画I		R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない	
都市生態学		R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない	
生態リスク学		R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない	
里山生態学	R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない		
実践科目	ROUTEプロジェクト	-	-	-	2相当		
	実践地域と起業	-	1~4年	第3ターム	2	H31より実践科目にカテゴリ変更	

## 実践科目：地域課題実習

Practical subjects: Global-Local Project Based Learning

下記の紹介掲載欄の①~⑥の項目内容：①概要・目的・活動の流れ、②年間スケジュール、③当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力、④活動・ミーティングの頻度、⑤備考、⑥活動情報掲載サイト

### NEW 里山コミュニティデザイン

担当教員：○佐藤峰（都市イノベーション研究院）,倉田薫子(教育)  
連絡先：sato-mine-bn@ynu.ac.jp/内線：3430

- ①里地里山の持続可能な利活用に関する創発的なアイデアの提案・実践：横国の緑という足元にある里地里山という資源を活かし、人間と生物とによって心地よく楽しい居場所にするための方針策定と試行/近隣地域の里山保全や里山資源を活かした取り組みへの参画・提言/県の里地里山条例改定など政策への提言/その他メンバーが発案すること（例：干し柿、ヒザ窯、林道、森ヨガ）
- ②春夏は里地（草地）中心/秋冬が里山（樹木）中心/学内の池・小山などの整備は通年。
- ③里地里山におけるPBL(Project Based Learning)を通じて、柔軟な発想およびクリエイティブに自然資源を活かせる知的能力の習得/道具（のこ・かま）や機械（チェーンソーや刈り払い機）が使えるようになる/生物多様性やWAB、環境を活かしたまちづくりに対する知識の習得
- ④月に2度程度（参加者で話し合っ決めていきます。興味に合わせてサブグループに分かれて活動することもあります。）
- ⑤特になし（汗をかくことを厭わない人）
- ⑥<https://satoyama-esd.ynu.ac.jp>  
<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000127.html>

### NEW BOSAIラボ

担当教員：○小松怜史,稲垣景子,細田暁（都市イノベーション研究院）  
連絡先：komatsu-satoshi-yx@ynu.ac.jp/内線：3067

- ①関東大震災から100年の節目となる2023年。新設の本プロジェクトでは、災害の歴史を学び、地域の現状を知り、防災・減災のあるべき姿を仲間と共に考え、解決策を提案・実行し、まちづくりに貢献したいと思います。
- ②4月：オリエンテーション/全体MTG（2~3か月に1回）/ワーキングチームMTG（2週間に1回程度）/9月：中間成果報告会（防災国体@YNU）/2月：最終報告会
- ③自助、共助、公助の基本的な考え方を理解する。仲間と共に、地域が抱える課題を把握し、解決策を模索し、実行する能力を身につける。常時・非常時に防災・減災に資する活動ができる人財を育成する。
- ④主にワーキングチームで活動する（2週間に1回程度）。対面とオンライン併用し、適宜教員とも議論する。
- ⑤豊饒な社会のための防災研究拠点と連携して取り組む。また防災国体（@YNU）で成果を全国に発信します。
- ⑥<https://bosai-lab.ynu.jp>

### NEW 学生公募型PJ: 静岡川根本町地域経済活性化プロジェクト

学生代表：○藤尾好太郎 (k.fujio.ynu@gmail.com), 佐藤優嗣朗  
担当教員：山崎満広（地域連携推進機構）

- ①以前川根茶というブランドを通じて栄えていた川根本町は、現在お茶の需要減少と共に衰退しつつある。これから地域経済を盛り上げていきたい、川根本町の行政や地域に住む若い方々等と協力し合い、川根本町の地域経済を盛り上げていく。
- ②5月チームビルディング/6~7月 現地調査と現状アセスメント/8~10月 魅力発見、ジビエや川根茶のプロモーション活動/11月~2月 現地への成果提出
- ③まちづくりに関する地域経済開発戦略の重要性、多面の方々を連携していく巻き込み力・リーダー力、実際に地域の方々と現実プランを考え、実現していく実践力。
- ④月に1~2度のミーティング、適宜外部パートナーとの打ち合わせ、インタビュー、現地訪問など
- ⑤定員は10名程度までとする。

### NEW 横国VRキャンパス

担当教員：○為近恵美（成長戦略教育研究センター）  
連絡先：tamechika-emi-vc@ynu.ac.jp/内線：3581

- ①横国のキャンパスをVRで再現するプロジェクトです。主にUnityとBlenderを使って制作を行います。今後は学生の作品を展示したり研究のシミュレーションへ活用したりするなど、幅広い展開を目指します。
- ②通年での活動を想定していますが、オープンキャンパスで成果を発表するような場合は、多少集中することがあります。
- ③プロジェクトに主体的に参加し、課題解決を図る能力。ゲームエンジンUnity、3DCG製作ソフトBlender等の基本的な使い方。バージョン管理システムgitを使用した複数人が携わる開発事例の経験。
- ④1ヶ月に1回程度の定例ミーティングを想定する(土日開催もあり得る)。
- ⑤パソコンの基本的な知識およびUnity等のソフトウェアが安定して動作するパソコンの所持が推奨される。
- ⑥<https://vrynu.com/>  
<https://vrynu.com/play/>

### 学生公募型PJ: Yokohama Univer-City

学生代表：○井上彩子 (inoue-ayako-gm@ynu.jp),日比野莉良  
担当教員：三浦倫平（都市イノベーション研究院）

- ①Yokohama Univer-City(YUC)とは、「大学をまちに開く」をコンセプトに始まった学生主導型プロジェクトです。常盤台キャンパスの空間活用やコミュニティの創造を通じて、学生・教職員・周辺住民にとって魅力的な地域づくりを行います。
- ②PJ内の分担ごとに、活動内容や関係主体によってチームメンバーによって自主的に決定されますが、各学期の中頃~末頃にかけて各PJが実践的活動を行います。
- ③PJ内外の人々と積極的に交流を図り、柔軟なコミュニケーションを取ることができ、また、もちろぬ知識や情報を活用し、学生独自のアイデアを生み出し、その実現のために積極的な行動ができる。
- ④全体ミーティングとチームごとのミーティングなど、最低週に一度の活動を自安にしています。
- ⑤学科や学年を超えて、個人的なメンバーで楽しく活動しています！HPやSNSで活動の様子をぜひ見てください！
- ⑥HP：<https://104scape.wixsite.com/yokohama-univer-city>  
Twitter、Instagramのサイトもあり。

### まちに開いた交流の場のデザイン

一住宅地の価値を上げる  
担当教員：○江口亨（都市イノベーション研究院）  
連絡先：eguchi-toru-ch@ynu.ac.jp/内線：4064

- ①野毛山公園の裏の住宅地に、二軒長屋を改修して2Fをシェアハウス、1Fを地域に開いた場にした「casaco」がある。その場の使い方を提案し、運営者の了解がえられれば提案内容を移行し、エリアの価値向上を目指す。
- ②4月~7月：現地視察、WSなどの運営の手伝い、企画立案/8月~9月：企画選抜/10月~3月：企画の実施（提案内容によって変わります）
- ③地域に開いた場をつくるため、完全ボランティアでもなく、稼ぐビジネスを立案するのでもなく、その中間の方法を用いる。全国に広まりつつあるソーシャルビジネスの方法論の一端を、実践を通じて学んで欲しい。
- ④年間を通じて1~2回/月程度のミーティングに加え、イベント開催時は準備を含めて1週間程度。
- ⑤2名以上の応募があった時のみ実施します。また、1年間を通じて参加できる学生を希望します。
- ⑥<http://casaco.jp>

**学生公募型PJ: ワダヨコ**

学生代表: ○佐藤めぐみ (sato-megumi-my@ynu.jp), 堀 雅也  
 担当教員: 野原卓 (都市イノベーション研究院)

①大学近く和田地域の町内会(和田西部)、商店街(和町)、子ども会(和田西部第一)などと協力してイベントを実施しながら、和田地域の魅力を発信し、和田地域と大学の架け橋となることを目的としています。

②和田地域のイベントのため、夏季が最も忙しくなります。テスト前を避けつつ通年で活動していきます。特に会議等においてはオンラインも活用します。

③街におけるイベントに積極的に参加し、街のひととの合意形成に努める中で、多角的な視点とコミュニケーション力を養ってほしいと思っています。特に将来まちづくりに関わる学生にとって、必ずや貴重な経験となります。

④イベントは2か月に1度ほど、ミーティングは対面またはオンラインで1か月に1-2度ほど行っています。

⑤都市科学部以外からの参画も歓迎しています。令和4年度は参画者の過半数が経済・経営学部生でした。

⑥ <https://wadayoko2010.wixsite.com/wadayoko> ※新年度以降は<https://wadayoko2010.com/>に移行予定。その他SNS有り。

**ハマの屋台プロジェクト-屋台からのまちづくり考える-**

担当教員: ○野原卓 (都市イノベーション研究院)  
 連絡先: noharat@ynu.ac.jp / nohara-taku-zs@ynu.ac.jp / 内線 4065

①「屋台」を使って地域の課題解決・活力向上を目指す。地域と協働して、まちを豊かにする屋台を、企画・設計・製作・活用(経営)まで一気通貫で考える。関内外・常盤台での活動のほか、新たな展開も検討中。

②4月: オリエンテーション、春学期: 昨年度までの活動継続及び新規活動の準備、8~9月: 地域の必要に応じて活動、秋学期: 企画した活動の実施・実践

③屋台の企画から製作、使い方検討を通じて、「企画力」・「分析力」・「実現力」を高めるほか、地域や仲間を巻き込みコミュニケーションを採る「交流力」、そして、最後まで実現までこだわりをもつ「熱意」。

④2週に1回程度のミーティング及び不定期に地域活動(土日開催もあり)

⑤地域とともに活動するので、自分本位の予定だけでなく、地域の予定や活動の状況も鑑みて年間のスケジュールがきちんと立てられること。

⑥ <https://www.facebook.com/hamanoyatai/>

**学生公募型PJ: サコロバ**

学生代表: ○落合佑飛 (ochiai-yuhi-hm@ynu.jp)  
 担当教員: 藤岡泰寛 (都市イノベーション研究院)

①高齢化の進む左近山団地の魅力にスポットライトを当て、地域の魅力向上に努める。地域の方々や協働し、地域住民らのニーズと活動メンバーの創意を融合させた取り組みを実施していく。また、他の団体との交流も目指す。

②PJ内の各チームがそれぞれイベントを企画するが、地域実施の夏祭りには毎年参加している。

③課題の発見と自らが実施したいイベントを融合させ、社会的に意義のある活動に昇華しイベントを実施すること。イベントに至る思考のプロセスと、イベントを成功させるための具体的な手法の習得が目標。

④各チームが適宜実施する。全体では月に一度実施。なお左近山団地でのイベント等には積極的に参加すること。

⑤左近山団地内で行われるイベントに参加すること

⑥ Twitter: [sacolabo\\_danchi](https://twitter.com/sacolabo_danchi)  
 Instagram: [sacolabo.danchi2022\\_](https://www.instagram.com/sacolabo.danchi2022_)  
 Facebook: さころば

**New - New Townプロジェクト**  
 -郊外住宅地のまちづくりを考える-

担当教員: ○野原卓 (都市イノベーション研究院)  
 連絡先: noharat@ynu.ac.jp / nohara-taku-zs@ynu.ac.jp / 内線 4065

①横浜市の特徴的な郊外住宅地の鉄軌道沿線(南万騎が原駅周辺)で、地域拠点「みなまきラボ」(公×民×学)と連携して、高齢化したベッドタウンを生き活きた「ニューニュータウン」にする企画活動を実施する。

②4月オリエンテーション、5~6月まちあるきツアー、プロジェクト検討、7~9月 課題解決のための提案、10月~ 企画準備・企画実施、11月 みなまきビックニック参加等

③自発的で積極的な「活動力」、地域の課題を見抜ける「洞察力」、魅力ある企画を立てる「企画力」、地域とともに動く「巻き込み・コミユカ」、小さくてもよいから具体的な物事を実現することに力を注げる「実装力」。

④2~3週間一度のミーティング・月一回の地域の会議参画及び地域活動(不定期)の実施。

⑤地域とともに活動するので、自分本位の予定だけでなく、地域の予定や活動の状況も鑑みて年間のスケジュールがきちんと立てられること。

⑥ <https://ynunewnewtown.wixsite.com/website> / Facebookもあり

**学生公募型PJ: コットンおとなりさんプロジェクト**

学生代表: ○美藤優斗 (bito-yuto-rd@ynu.jp), 安藤萌花, 村山優々  
 担当教員: 伊集守直 (国際社会科学研究院)

①コットンハーバー地区をフィールドに、地域の団体や自治会と協力し、世代を超えた交流ができるコミュニティづくりや、防災意識の向上などを目指して活動します。

②居場所をつくるCCTパークが遊び場のプレイパークが、毎月1度程度開かれます。一年間を通じて、地域と相談しつつ活動内容を企画し、それを実施していきます。

③地域の団体、自治会関係者等との交流を通じて、コミュニティづくりの現場の課題や解決方法を学びます。協働力、企画力、文章作成力、プレゼンテーション力、HPやYouTubeなどのSNSを利用した発信力も身につけます。

④週に一度ずつの全体ミーティングや学生間でのミーティング、不定期での地域との打ち合わせ・企画への参加。

⑥ Twitter: @chotonarisan  
 CCT HP: <https://cottonct.org/>

**南米農村部での学びを生かした横浜「共生」プロジェクト**  
 -住居・福祉・教育・栄養改善の視点から-

担当教員: ○藤掛洋子, 大原一興, 小宮正安, 藤岡泰寛, 三浦倫平, ファビアン・カルバントラ, 平野恵子 (都市イノベーション研究院), 杉山久仁子 (教育学)  
 連絡先: [fujikake-yoko-mp@ynu.ac.jp](mailto:fujikake-yoko-mp@ynu.ac.jp) / 内線 3227

①横浜5団地において地域に暮らす子どもたち(含む外国につながる子どもたち)を対象に南米パラグアイ農村部にある共助の文化を取り入れたサポート空間を作り、学習支援や食支援に加え、生活の質の向上を支援する。

②南米に渡航予定の学生他が神奈川県、横浜市、社協、NPO他と連携し、地域の方々や企画を立案、実行する。年度末には報告書作成と学内外で活動報告を行う。

③地域のニーズを理解し、社会的弱者やマイノリティの方々や協働する力を習得する。調査方法の技術、ヒアリング能力、他組織との連携・企画・交渉・調整能力、コミュニケーション能力も含む。

④月曜日昼休み+毎月1回土曜日(予定)に講義、活動計画策定に加え、NPOや行政、現場での企画・立案・実施。

⑤履修希望者と代表教員が面談を行い、選抜を行う場合があります。

⑥ <https://www.facebook.com/ynu.mitaimitakunai>

**転倒しない街共創ラボ「ころば」**

担当教員: ○鳥 圭介(環境情報研究院) 小林知恵, 他7名  
 連絡先: [shima-keisuke-sh@ynu.ac.jp](mailto:shima-keisuke-sh@ynu.ac.jp) / 内線: 4148

①高齢者の転倒防止技術を広く知って使ってもらい、誰もが元気で転倒しない街の創造を目指します。主な活動としては、リビングラボを開催し、参加者との対話を通して社会への導入の方法と一緒に模索していきます。

②年3~4回程度のリビングラボの開催と、10月にワークショップを予定しています。地域住民向けの情報発信イベントなど、調整・相談しながら開催します。

③地域の高齢者をはじめとする様々な参加者と積極的に対話・交流し、自身の意見をまとめて伝える力を鍛えます。ヒトの加齢に伴う機能低下への理解を深め、科学技術コミュニケーションも一緒に学んでいきます。

④2か月に一度程度のリビングラボへの参加、サポート

⑤個別企画での活動・イベント参加

⑥イベント前後にミーティングを開催することがあります。ミーティングへの参加もお願いします。

⑦ <http://bsd.ynu.ac.jp/>

**キャンパスUD (ユニバーサル・デザイン) プロジェクト**

担当教員: ○藤岡泰寛, 大原一興 (都市イノベーション研究院)  
 連絡先: [fujioaka-yasuhiro-fg@ynu.ac.jp](mailto:fujioaka-yasuhiro-fg@ynu.ac.jp) / 内線: 4067

①本プロジェクトでは、第2食堂・ロウン前の広場(スロープや植栽を含む)を重点エリアとして、UDの観点から誰もが快適で使いやすい場所となるための実践活動を障がい学生支援室や施設部と協働しながら行います。

②春学期: 現状調査、障がい学生支援室や施設部へヒアリング植栽や花壇の計画・デザイン、サインの検討と実施  
 秋学期: 広場や花壇の名前考案、プレート等のデザイン検討

③様々な心身の特性や考え方を持つ人の理解。プロセスも含めたユニバーサル・デザインの技術。多様な利用者に共感されるデザイン実践を通じたコミュニケーション能力の獲得。

④週一回程度、時期によっては隔週程度でのミーティングや活動を想定しています。

⑤植栽や花壇の整備、サインの設置等については、施設部と協議しながら実施を検討します。

⑥ <http://shisetsu.ynu.ac.jp/gakugai/shisetsu/>  
<https://www.shougai-support.ynu.ac.jp/index.html>

**学生公募型PJ: モビリティ・デザインの実践**

学生代表 ○白岩元彦 (shiraiwa.motohiko@gmail.com), 宮内爽太  
 担当教員: 池島祥文 (国際社会科学研究院)

①まちの魅力を高めるために、モビリティ(=移動のしやすさ)のあり方の提案、実施を目指す。2023年度は「大田地区アブリの開発」「観光企画チケットの提案」「駅中心のまちづくりの実践」に取り組む。

②年間を通じてチームごとに設定したテーマや方針に基づいて取り組み、プロジェクトの成果は年2回の報告会にて発表する。具体的な進め方については④で示す。

③人々の移動のしやすさとまちづくりの関係性を学び、地域の課題解決や目標達成のための交通サービスのあり方、空間のあり方、情報提供のあり方を考え、それらの具体的な実現方策を描き出し、実現する力をつける。

④班の方針や時期によるが、基本的に2週に1回のチーム会議、1か月に1回の外部機関の合同会議を行う。

⑤LocalST(株)(YNU発ベンチャー)、京急電鉄(株)、(株)アットヨコハマ、横浜市、藤沢市と連携して取り組む

⑥ Twitter: @ynu\_mobility

**学生公募型PJ: よこはまのかいしや魅力発見プロジェクト**

学生代表 ○須田大雅(suda-taiga-fs@ynu.jp), 中野基生  
 担当教員: 為近恵美 (tamechika-emi-vc@ynu.ac.jp)

①地域に根差して事業活動をする企業と横浜国立大学の産学連携を深めることを目標に、地元企業を実際に訪れ、隠れた魅力を学生に周知します。ネット経由ではわからない企業活動の現場を体験し、自身の将来を考えます。

②4,5月: オリエンテーション/6,7月: 会社の詳細を調べる。調査の際の質問等をまとめる。/8,9月: 会社訪問を2回程度行う/10,11月: 春学期の活動の反省、広報活動 /12-2月: 横浜イノベーション研究会総会参加、今後の活動計画

③様々な業界の地元企業に訪問し、地域に根ざす企業の魅力に気づく。社人相手交渉し取材を実行する力や対人関係能力、プロジェクトマネジメント力など、社人として重要な能力を習得する。

④月に一回、対面またはオンラインのZOOMミーティング。休講日や長期休暇を利用して実際に会社訪問を行う。

⑥ Instagram: [ycp\\_corporationlab](https://www.instagram.com/ycp_corporationlab/) / Twitter: [ynucorporationlab](https://twitter.com/ynucorporationlab)  
<https://www.facebook.com/yokohamainnovationlab>

**おおたくりクリエイティブタウン研究プロジェクト**

担当教員: ○野原卓 (都市イノベーション研究院)  
 連絡先: noharat@ynu.ac.jp / nohara-taku-zs@ynu.ac.jp / 内線 4065

①モノづくりのまち大田区で、技術×創造×生活による「クリエイティブ・ファブタウン」構想を基に、地域拠点「くりらぼ多摩川」の運営、おおたくりオープンファクトリー(イベント)参画を通じて、クリエイティブな活動を行う。

②4月 オリエンテーション、5~7月 企画準備及び地域活動参加、8~10月 企画準備、11月 おおたくりオープンファクトリー(イベント)、その他不定期の地域活動。

③今あるモノづくりのまちの課題を自ら「見抜き」、これを解決して豊かなまちとするための「企画を立て」、地域の方々や仲間を巻き込み、小さくてもよいから物事を積極的に実現することに力を注げる「実装する」力。

④2週に1回程度のミーティング及び地域活動(地域で1度程度の会議及び不定期の地域活動(土日開催もある))

⑤地域とともに活動するので、自分本位の予定だけでなく、地域の予定や活動の状況も鑑みて年間のスケジュールがきちんと立てられること。

⑥ <https://o-2.jp/mono/ooft2022/>, <https://www.o-2.jp/mono/lab/index.html>, <http://oct-c.com/> / Facebook [おおたくりオープンファクトリー](https://www.facebook.com/oohataopenfactory)

**データで捉える地域課題・地域経済2023**

担当教員: ○居城琢, 氏川恵次, 池島祥文 (国社)  
 連絡先: [ishiro-taku-vr@ynu.ac.jp](mailto:ishiro-taku-vr@ynu.ac.jp) / 内線 3567

①本プロジェクトは、横浜市・神奈川県をフィールドとして、学生自身が調査に取り組み、地域の素材を発掘することを目的とします。その成果を各自自治体や、企業との共同研究として社会に発信することを狙っています。

②4月~5月 課題の設定にむけた検討会/6月~8月 活動/10月 中間報告会/11月~1月 活動/2月 最終報告会/3月 成果報告書の作成

③実際に地域の現場に飛び込むことができる学生を求めます。みずから課題の設定、調査、活動の遂行、成果報告に向けた準備・資料作成を進める能力を習得して欲しいと思います。

④基本的には、学生自身による自主的なプロジェクト活動になりますが、担当教員を決め、1から2週に1回程度の研究打ち合わせを行います。

⑤5人以上の参加がない場合には、グループでの活動が難しくなるため、個別研究になる場合があります。参加希望者は事前に教員と相談することをお勧めします。

### 再生エネルギーの地産地消を軸とした循環型地域経済のデザインプロジェクト

担当教員：○山崎満広 (地域連携推進機構)  
連絡先：yamazaki-mitsuhiko-jh@ynu.ac.jp

①グループ1：富山県南砺市エコビレッジ推進課、(株) 島田木材、南砺森林資源利用協同組合と連携のもと地元産の木質ペレットの地産地消による地域経済循環の促進を目指した活動を行う。  
グループ2：茨城県行方市、行方市観光協会、株式会社霞観光などの支援を受け、行方市の観光プロモーションの支援活動を行う。  
②グループ1：5月チームビルディング、6~7月 現地調査と現状アセスメント、8~10月 木質ペレットのプロモーション活動、11月~2月 五箇山ライトアップイベントでの展示  
グループ2：5月チームビルディング、6~7月 現地調査と現状アセスメント、8~2月 観光プロモーション活動  
③まちづくりにおける地域経済開発戦略の重要性、持続可能エネルギーと基礎知識、再生エネルギー地産地消や換気王プロモーションにあたって既存のコミュニティの生業のあり方や循環の仕組み作りに関わるアセスメントと戦略作り、デザイン思考、コミュニティ・デベロップメントの考え方・進め方  
④月に1~2度のミーティング、適宜外部パートナーとの打ち合わせ、インタビュー、現地訪問など  
⑤定員は各グループ10名程度までとする。  
⑥<https://circular-eco.wixsite.com/website>

### はまみらいプロジェクト

担当教員：○吉田聡、野原卓、稲垣景子 (都市イノベーション研究センター)  
連絡先：yoshida-satoshi-vx@ynu.ac.jp / 内線 4249

①横浜の資源でもある「うみ」と「まち」の関係を考えながら、横浜の未来を考えるプロジェクト。具体的には「観光と賑わい」「防災・安全」「脱炭素エネルギー」を軸に取り組んでいく。  
②2週に1回程度のミーティング、2か月に1回の外部組織 (UDC-SEA)との会議を通して、年に2-3回のイベントを企画、開催予定。  
③横浜の資源でもある「うみ」と「まち」の関係を考えながら、具体的に地域に対してどのようなアクションを興すことができるか、「観光と賑わい」「防災・安全」「脱炭素エネルギー」を軸に横断的に考える力をつける。  
④月に1回、外部組織 (UDC-SEA) との会議/2週に1度程度の会議。/外部組織や地域と連携した企画への参画等。  
⑤連携外部機関：UDC-SEA横浜観光コンベンションビューロー横浜みなと博物館幸海ヒールズ など  
⑥<https://hamamirai.localinfo.jp/>  
Twitter @yoko\_hamamirai , @hamamirai\_bosai

### 島プロジェクトin鳥羽 (現代世界の課題の探索と協力の実践)

担当教員：○小林誉明 (国際社会科学研究院)  
連絡先：kobayashi-takaaki-gv@ynu.ac.jp / 内線 3611

①三重県鳥羽市の離島四島の活性化等に取り組む団体、四島の中でも志志島和具地区をメインに、地域の基幹産業や風俗について学ぶ。活動を通じ課題を発見し、その解決を目指す。  
②春、夏などの長期休みに合わせて現地へ訪問し活動する。プロジェクトの中にそれぞれチームを作り、鳥羽市側のステークホルダーと協働し課題解決に取り組む。  
③日本社会における一般的な課題への理解はもちろん、対象地域の事情も十分理解できることが必要である。島民との交流の中で、自らが必要とする情報や合意を得るための自発的な行動のための能力を獲得すること。  
④ミーティングは必要に応じて行う。長期休み中は、現地へ移動し活動する。  
⑤鳥羽市内の離島四島での活動に参加すること。  
⑥[https://twitter.com/shimapj\\_toba](https://twitter.com/shimapj_toba)  
<https://www.instagram.com/shimapj>

### 学生公募型PJ: 岩手らばーず

学生代表：○鈴木友理 (suzuki-yuri-gj@ynu.jp)  
担当教員：田中稲子 (都市イノベーション研究センター)

①横浜とは異なる点の多い岩手や東北各地を訪ねることで地域課題や魅力を体感し、それらを持ち寄りて話し合うことでさらに理解を深めます。その上で、様々な人の心に届くように試行錯誤しながら情報発信をしています。  
②4-5月：オリエン、6-7月：担当地域事前調査・興味分野の掘り下げ、8-9月：各地域の活動へ参加、10、11月：夏季休業の活動の反省・広報活動、12-2月：今後の活動計画  
③北東北の小さな地域に置かれた現状を実感しつつ、その地域で暮らす人々と一緒に前向きに課題を解決する力を身につけます。貴重な体験や様々な人と密に関わる経験を積めるため、精神的な成長・発見があると思います。  
④基本月1回のZOOMミーティング。夏季、冬季、春季などの長期休暇に実際に岩手県に泊りに訪問。  
⑤岩手県やその他東北地方に興味があれば、行ったことがなくても構いません。

### みなとまちプロジェクト

担当教員：○志村真紀 (地域実践教育研究センター)  
連絡先：shimura-maki-pw@ynu.ac.jp / 内線 3579

①当プロジェクトでは国内外のみならず学びながら、静岡県清水港を対象地として、お茶・清水次郎長・伊豆石・倉庫群等の地域資源のブランディング活動を行い、街の魅力の創造・発信を通して清水のまちづくりを盛り上げる。  
②年間を通して、連携先お茶農家さんの手伝い及び茶製品の製造・販売を行いつつ、伊豆石や倉庫群などの調査・研究活動を新メンバーも含めて計画・実施する。  
③1・2年目は、清水区の特徴を多角的に理解した上で改善点を分析し、具体的な活動に落とし込んで実行する企画能力、3年目以降は、進むべき方向性を見据えて全体の運営や組織構造を調整する能力の習得を目指す。  
④全体ミーティング：2週に1回から月に1回程度  
その他、各班別ミーティングあり。  
⑤地元の企業、行政、農家、大学 (常葉大学、等) との繋がりを大事にしながらかつ活動内容を計画していく。  
⑥<https://www.ynu-minatomachipi.com>

### ローカルなマテリアルのデザイン

担当教員：○志村真紀 (地域実践教育研究センター)、原口健一 (教育)  
連絡先：shimura-maki-pw@ynu.ac.jp / 内線 3579

①都市と農村・里山の間で地産地消や経済的な流れをつくりだすためにも、ローカルなマテリアルのデザインを通じて、持続可能な地域社会と暮らしに向けたデザインや建築設計で出来ることを考え取り組んでいきます。  
②来春に新設される羽沢のサテライトキャンパスに設置するために家具制作  
・広葉樹によるスツールおよび机の制作  
・今年度は壁材・断熱材として使用できる天然素材も取り上げていきたい。  
・現地視察  
③広葉樹を含む木材や、地域および日本の風土を活かした各種素材の基礎知識やデザイン技術を身につけることに期待ができます。  
④隔週1回ほどの実践・制作活動。  
⑥Instagram：タグ #ローカルなマテリアルpj

### 「キャンパスの魅力」プロジェクト

担当教員：藤原徹平 (都市イノベーション研究センター)  
連絡先：fujiwara-teppeji-tw@ynu.ac.jp

①キャンパスの土を使って日干しレンガを作り、そのレンガでベンチを作る。キャンパスの使われていない空間にベンチを作ること、キャンパスに学生の居場所を増やす (キャンパスの魅力が耕される)、また、ベンチを作る、という行為を通して、学年や所属を超えた人間関係を構築する。(人と人の関係も耕す) 作った場所を使う活動も並行して行うことで、使い方も広めていく。  
②半年かけてキャンパス内を一か所耕す。リサーチ、設計、工法の検討、実験、施工を一学期で行う。(その間ワークショップも1階以上行う。) 耕した場所を使う活動は、1か月に一回行う。  
③キャンパスの現状を分析し、何をすべきか考える力。集団におけるリーダーシップ。他者と協力してやり遂げる力。建築工法の知識、施工技術。新たな工法を編み出す発想と思考力。企画力・運営力。  
④週に一回  
⑥Instagram ユーザーネーム ynuucampuspj

### 都市の自然を楽しむライフスタイル

担当教員：○小池文人 (都市科学部環境リスク共生学科)  
連絡先：koike-fumito-nx@ynu.ac.jp / 内線 4356

①大学周辺を主なフィールドにして都市生活者が日常的に身近な自然を楽しむライフスタイルを設計して普及します。新しい近距離ツーリズムの開発のため自然や制度を学び、体験評価や招待イベントを行います。  
②都市や近郊の潮干狩りと釣り、都市の山菜や食用キノコ、都市に残った野生植物の鑑賞、散歩、大学キャンパスの自然体験、など季節ごとのテーマと地域の魅力発見活動。  
③都市や近郊に自然があることを体験的に知る。利用の制約となる制度や利害関係についての知識と、解決する広い視野を得る。里山の自然の歴史や自然の管理技術・能力を得る。新たなツーリズムを開発し主導・普及する。  
④およそほぼ毎週を予定。勉強会と週末を利用した調査や体験などを行う。  
⑤野外活動を含む、週末を利用した調査や体験も行う。学外参加者 (中学、高校生など) をガイドする。  
⑥<http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lifestyle/>

### 学生公募型PJ: アグリッジプロジェクト

学生代表：○森田直 (連絡先：face.kmmy@gmail.com)  
担当教員：池島祥文、小林誉明 (国際社会科学研究院)

①農業による地域活性化を「ビジネスによる経済活性化・地域コミュニティの活性化・技術開発(研究)による活性化」という3つを軸にして、多数のプレーヤーを巻き込みながら学生が主体となり多様な活動をしていく。  
②4~5月：組織づくり・研修・既存プロジェクト始動、6~7月：活動、9月末：プロジェクト評価・方針修正、10~2月：活動、2月中旬：年度末報告  
③関心分野や専門分野のスキル・知識を得ることはもちろん、外部関係者と自分で交渉し巻き込む力やPDCAを回す力、プロジェクトマネジメント力など、社会人として重要な能力の習得を重視している。  
④野菜の生育管理など恒常的な活動はあるものの、参加頻度は各学生の関わり方による。  
⑤農業の現場を知るために参画学生は少なくとも1度はプロジェクトが運営する畑で農作業を体験してもらう。  
⑥<https://agridge-chiiki-kasseika.localinfo.jp/> その他、SNS有り。

### 学生公募型プロジェクトの募集

地域と連携した実践的な取り組みを横浜国立大学内の学生から広く公募します。学生公募型プロジェクトを立ち上げる学生は、事前にセンターへ連絡することによって、オリエンテーションの際にプロジェクトの紹介を行うこともできます。応募に関する詳細、条件、および申請書は、下記のアドレスやQRコード先からダウンロードしてください。

■ 申請・提出：まずは地域実践教育研究センターまでご連絡ください。申請書をお送りします。 [chiki-ct@ynu.ac.jp](mailto:chiki-ct@ynu.ac.jp)  
■ 提出締切日：4月20日 (木) 23時59分まで

地域課題実習を履修・参画するみなさんへ：  
実習時の怪我や事故の方が一の可能性を考慮して、入学時に学生教育研究災害傷害保険が協賛学生総合共済 (生命共済) 等の保険に加入していない学生は、保険に加入してはいかがでしょうか。

# 「修了者」からのメッセージ



## 村本真菜

Mana MURAMOTO

教育人間科学部 マルチメディア文化課程 卒業  
現在、名古屋鉄道株式会社

コア科目：地域連携と都市再生A・B  
講義科目：ワークショップ「多元的共生をめざして」  
建築の環境と防災、共生支援論A  
実践科目：公共空間の活用とにぎわいづくりPJ

地域交流科目を受講する事で、まちづくりやNPOで活躍している外部の方と交流し、実践的な考えを知る機会を得ることが出来ました。講義で学んだ事を生かし、私は3年間、和田町商店街で賑わいづくりの活動に取り組みました。商店街や地域の住民の方々と共に和田町を盛り上げていく中で、人と人との繋がりの大切さを再確認し、身近な地域に対し自分がどのように関わっていくべきかを考える事が出来るようになりました。



## 山口大地

Daichi YAMAGUCHI

経済学部 卒業  
現在、株式会社リクルート

コア科目：地域連携と都市再生B  
講義科目：ベンチャーから学ぶマネジメント、現代の物流経営、  
国際環境経済論、比較農業政策、  
途上国経済、地域イノベーション政策  
実践科目：アグリッジプロジェクト

地域交流科目では授業での経済学の理論と現場で経験する実践を並行して学ぶことで、理論がどう社会で使えるかとワクワクする授業が増え、ゼロから始まる地域活動では机上の学びが度々活かされました。また、深い自己分析そして自己実現に必要な力が鍛えられ、私の「地元を世界一のまちに」という野望に役立つヒントも自分なりに見つけました。インターンも良いですが、自分のために大学をフル利用することをオススメします(笑)



## 市木晶子

Akiko ICHIKI

経営学部 会計・情報学科 卒業  
現在、ソニー株式会社

コア科目：地域連携と都市再生A・B  
講義科目：建築の環境と防災、環境をめぐる  
諸問題、企業環境システム論  
実践科目：エコの芽を育てるプロジェクト

私は「エコの芽を育てるプロジェクト」に参画しました。1年目は上級生と私の4名でしたが、2年目は同学年の学生が加わり8名になりました。地域課題実習では学内から外に出て、地域の方に厳しくも温かいご指導を頂く機会もあります。自ら課題を設定し、積極的に動くことを通じて、沢山のものを得ることが出来ます。年度末には成果発表の機会があるので、自分のしたことをしっかりとプレゼンテーションできる能力を高めて下さい。



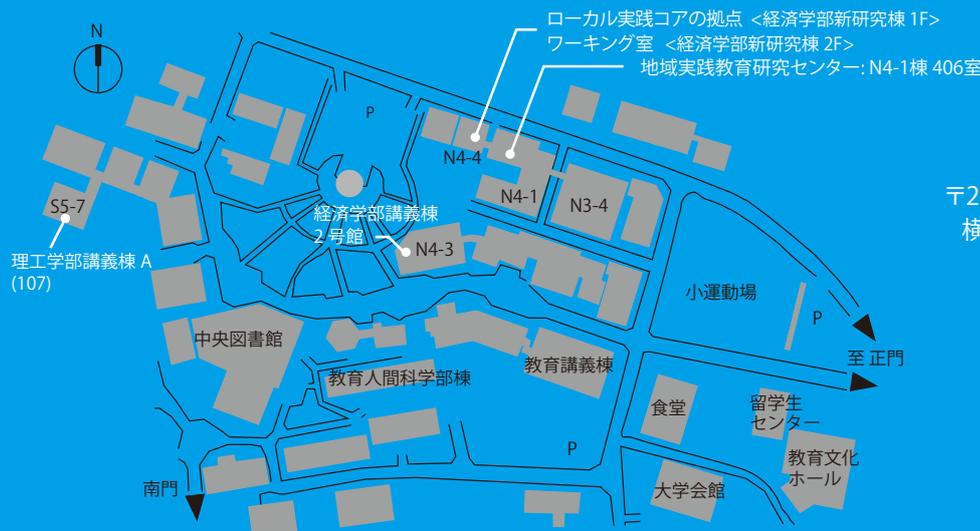
## 鈴木佳織

Kaori SUZUKI

都市科学部 都市社会共生学科  
現在、東京都庁

コア科目：地域連携と都市再生A,B,  
神奈川の mirai、横浜学  
講義科目：都市生態学、居住空間の計画 I・II  
実践科目：みなとまちプロジェクト

私は地域の方々と協力し、イベント運営や商品開発などを行いました。実際に地域に出て活動したことで、そこで暮らす人の生の声を聞くことができ、授業での学びを深めると共に、それ以上の知見が得られたと感じています。また、活動する上では主体性や積極性、仲間とのチームワークが不可欠でした。活動を通してそうした力を養えたことは、今後に繋がる財産になったと思います。ぜひ積極的にチャレンジしてみてください！



■ 問合せ・連絡先：  
地域実践教育研究センター

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3  
横浜国立大学 経済学部1号館 406号室  
TEL&FAX : 045-339-3579  
chiki-ct@ynu.ac.jp  
http://chiki-ct.info

